平成22年3月16日

林野庁事業評価技術検討会委員から出された主な意見

平成22年3月10日（水曜日）に開催された林野庁事業評価技術検討会において、「平成22年度事前評価」等について委員から以下のような意見が出された。

<平成22年度事前評価について>

- ・ 森林整備事業の中に森林環境保全整備事業があり、森林整備事業と治山事業を合わせた概念が森林保全整備というのであれば、一般の人にもわかりやすくする観点から、体系がこうなっているなどの注釈や関係図を付ける方が良いのではないかと。
- ・ 事業により便益の評価の項目が少ないものがあるが、便益を選ぶ作業は大事で、どういふものをみているのかももう少し分かりやすく示した方が良いのではないかと。
- ・ 生物多様性が大事だと言われているが事業評価のなかに出ていないため、何らかの評価していくことを検討すべきではないかと。また、やり方として環境アセスメント的な手法があるが、そのような対応も今後検討した方が良いのではないかと。
- ・ 路網整備を行い間伐などの保育作業を行うとしているが、路網が整備されるとこれまで切り捨て間伐だったものが搬出されることになると思うが、その評価は行っているのか。

<平成21年度期中の評価及び完了後の評価について>

- ・ 林道を整備したことにより作業に行きやすくなったとか、生活上、便益が増したと評価するのであれば、代表事例の地図に集落の場所を明記するなど、林道や施設と居住地の位置関係が分かるような工夫が必要ではないかと。

<林野公共事業における事前評価マニュアルの改訂について>

- ・ 間伐をした場合、土壌に蓄積される部分をカウントするということであるが、切り捨て間伐の場合の評価はどのようにするのか。また、新植を行った場合、何年目から土壌の部分をカウントされるのか。